

米国 8ヶ月ぶりの低下も製造業部門の好調さを示す高水準維持 (11年3月ISM製造業景気指数)

発表日：2011年4月1日（金）

～製造業部門は世界的に堅調さを維持～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治
03-5221-5001

ISM製造業景気指数 は61.2と前月比0.2% ポイント低下

3月のISM製造業景気指数は、61.2と前月比0.2%ポイント低下したが、市場予想を上回った（市場予想中間値61.0、筆者予想62.1）。8ヶ月ぶりに低下したが、拡大縮小の分岐点である50を21ヵ月連続で上回ったうえ、高い水準を保っており、米国製造業部門の好調持続を示している。製造業部門はドル安や好調な新興国経済等による輸出の増加に加えて、国内需要の緩やかな拡大に支えられている。

総合指数への構成項目別の寄与度をみると、入荷遅延（前月比+0.7%ポイント）、生産（同+0.5%ポイント）が押し上げ寄与となったが、新規受注（同▲0.9%ポイント）、在庫（同▲0.3%ポイント）、雇用（同▲0.3%ポイント）が押し下げ寄与となり、総合指数は前月比▲0.2%ポイント低下した。また、拡大した業種数は15業種（前月14業種）と増加した。

予想を上回った同統計発表直後の市場の反応をみると、株価が上昇、10年債利回りはほぼ変わらず。為替市場ではドルは対円で反応薄だったが、対ユーロで弱含んだ。

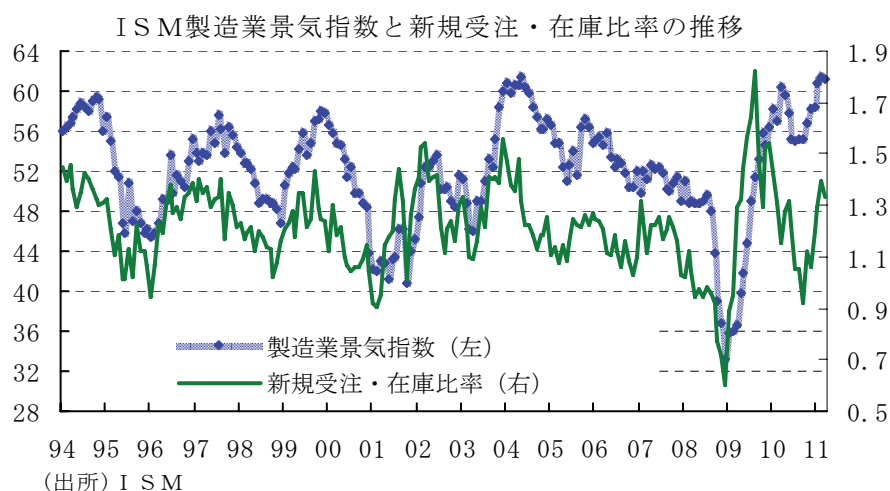
ISM (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
10/07	55.1	52.9	56.9	57.6	50.3	58.0	54.5	57.5	56.5	52.5
10/08	55.2	53.7	57.2	58.2	50.9	55.9	51.5	61.5	55.5	56.5
10/09	55.3	51.6	58.1	56.9	56.0	53.8	46.5	70.5	54.5	56.5
10/10	56.9	59.9	61.4	57.9	53.2	52.3	46.0	71.0	60.5	51.5
10/11	58.2	59.6	58.2	59.0	56.1	58.1	46.0	69.5	57.0	53.0
10/12	58.5	62.0	63.0	58.9	51.8	56.7	47.0	72.5	54.5	50.5
11/01	60.8	67.8	63.5	61.7	52.4	58.6	58.0	81.5	62.0	55.0
11/02	61.4	68.0	66.3	64.5	48.8	59.4	59.0	82.0	62.5	55.0
11/03	61.2	63.3	69.0	63.0	47.4	63.1	52.5	85.0	56.0	56.5

ISM製造業景気指数は 高い水準を維持

今後に関しては、世界的な景気拡大持続による輸出の増加や、世界のハイテク循環がボトムをつけたこと等による生産活動の活発化によってISM製造業景気指数は高い水準を維持すると見込まれる。

トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が10年9月をボトムに上昇しており、目先景気指数が高い水準を維持することを示唆している。



輸出の堅調持続を示唆

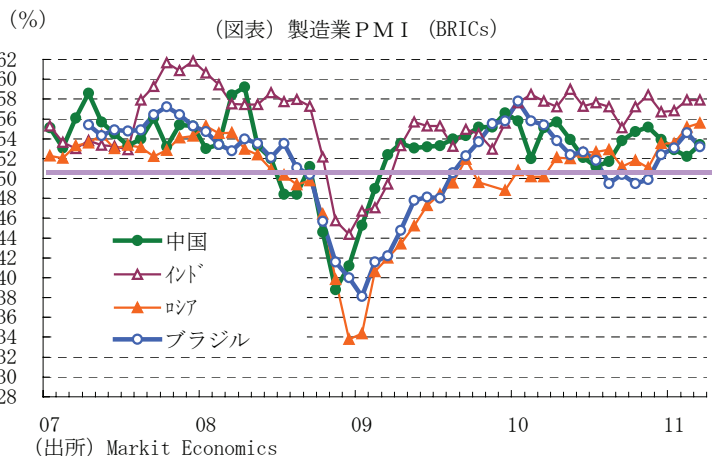
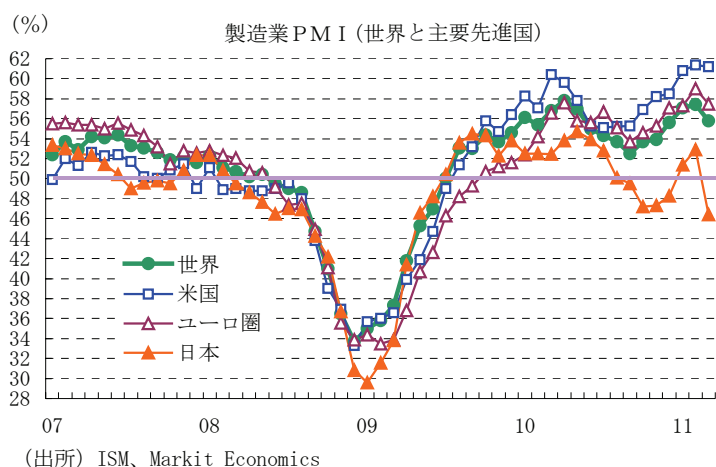
輸出受注DIが3月に56.0と前月比6.5%ポイント低下したが、拡大縮小の分岐点である50を大幅に上回っている。新興国経済などの好調、ドル安等によって、米国輸出は高い伸びを維持することを示している。

3月の世界製造業景気は低下も高水準を維持

3月の各国の製造業景気指数をみると、多くの国で前月比で低下したものの、高水準を維持している。先進国では、ユーロ圏が前月比で低下も18ヵ月連続で50を上回り堅調さを維持している。英国、デンマーク、スイス、スウェーデンなども高い水準を維持している。一方、日本では東日本大震災の影響により前月比で過去最大の下落幅となり、50を下回って製造業部門の縮小を示した。海外でも、中国では一部の電子機器メーカーで主要原材料・部品の調達が困難となり生産活動に影響が生じていると報告されていたが、4月により大きな影響が確認されるとみられる。

ハイテク部門の影響を受け易い台湾は、高い水準を維持している。さらに、BRICsではブラジルが小幅低下したが、中国、ロシアが上昇し、インドが高水準横ばいとなり、BRICsの製造業部門の好調さを示している。

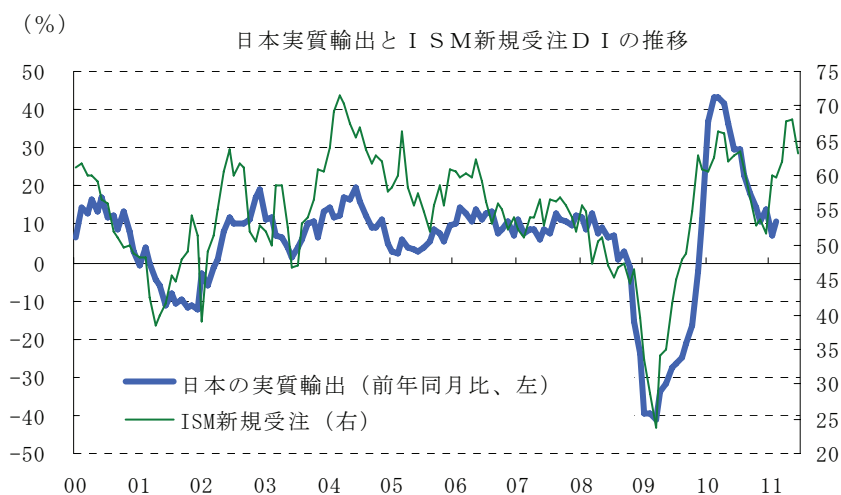
これらの結果から、各国の数値を合成した世界製造業景気指数は3月に55.8（前月57.4）と低下したが高い水準を維持、世界的な製造業部門の好調持続を示している。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**各国の米国向け輸出の
拡大ペースは11年に
入って拡大している可
能性**

遅れて動く傾向がある輸入D Iは3月に56.5と前月比1.5%ポイント上昇し、高い水準を維持、輸入の高い伸びを示唆している。さらに、新規受注D Iが63.3と低下しているが高い水準を維持していることから、先進各国やB R I C s など新興国の米国向け輸出の拡大ペースは、11年に加速すると考えられる。

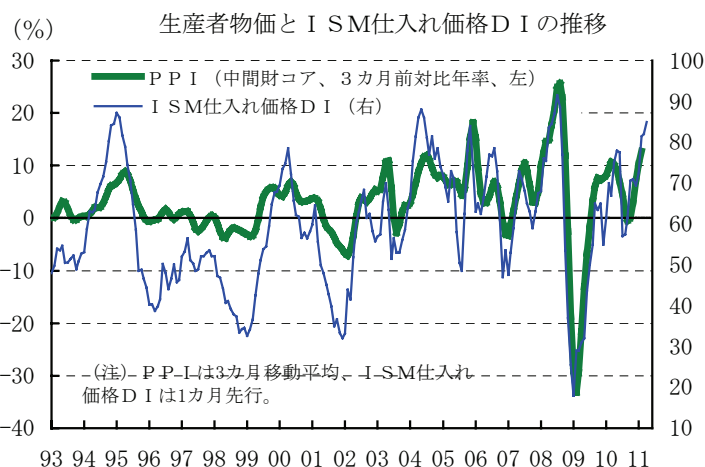
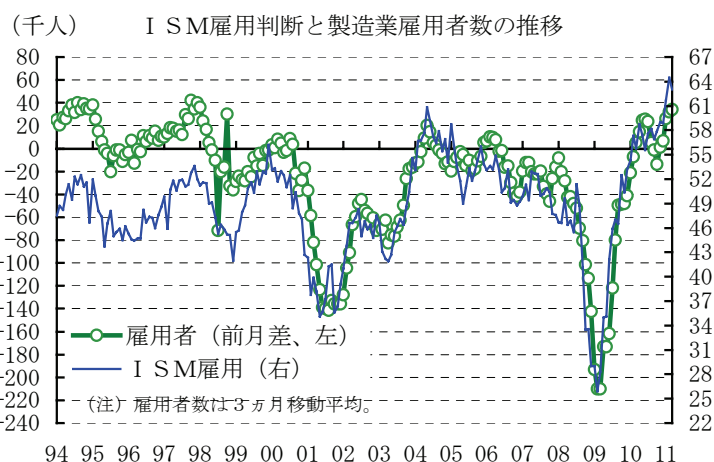


**雇用D Iは63.0と製
造業雇用の拡大持続
を示唆**

雇用D Iが63.0と前月比1.5%ポイント低下したが、高い水準を維持しており、製造業雇用者数（3ヵ月移動平均）は増加傾向を維持すると見込まれる。ただし、価格競争の激化の中でコスト削減圧力が強く、製造業部門での雇用の大幅な増加は期待できない。

**仕入価格D Iは85.0
と川中でのインフレ
圧力の強まりを示す**

仕入価格D Iは、85.0と前月比3.0%ポイント上昇した。先進国の金融緩和継続による潤沢な流動性、悪天候などによる食料の供給不足懸念、北アフリカ・中東情勢での民主化要求の強まりに伴う原油供給懸念などを受けたエネルギー・商品価格の上昇によって、川中でのインフレ圧力は強まっている。企業収益を圧迫するとみられ、企業はコスト削減圧力をさらに強め、雇用の拡大ペースに悪影響を及ぼすと見込まれる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。